

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	RAINBOW名東一社クラブ		
○保護者評価実施期間	2025年3月1日		2025年3月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2025年3月1日		2025年3月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援計画に沿った支援を行っていること。	期限までに必ず計画を作り、作成後は職員間で共有している。	保護者様、職員の意見のみならず、当該お子さまの関係機関についても幅広く意見を伺いそれを反映すること。
2	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討していること。	分かりやすい場所にヒヤリハット備忘録を設置している。ヒヤリハットが起きた際は口頭でも職員間で共有している。	その日不在の職員にも共有すること。
3	保護者様の子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言を行っていること。	送迎の際に伺った相談は直ちに児発管に共有し、適切な助言と支援を行っている。	保護者様から伺ったお話は職員にもフィードバックしていること。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童クラブや児童館との交流、地域の他の子供と活動する機会が少ないこと。	主に事業所内で活動しているため、交流する機会が少ないため。	お出かけや外遊びの際には他の子どもたちと接する機会を意識的に増やす。例えば公園遊びであれば、利用児に遊具の貸し借りを自身から言う練習をしてもらうなど、スモールステップから始めていきたい。
2	支援開始前に職員で十分な打ち合わせを行うこと。	送迎業務や非常勤職員の出勤時間の兼ね合いもあり、現状は支援開始前に全員揃って打ち合わせを行うことは難しいため。	管理者や常勤職員が中心となって個別のコミュニケーションや申し送りなどをしっかりと行っていく。
3	活動プログラムの立案をチーム全員で行うこと。	現在は責任者を中心にプログラム立案を行っているが、より多くの職員の意見が反映される仕組みが構築されていない。	全体でのミーティング時より立案の準備を進めていけば、より多くの意見が反映されるものと思う。